

認知症のインフォーマルサポートネットワーク に関する地域間比較研究

奥 田 憲 昭

目次

1. 問題意識
2. 認知症の進行段階と生活支援
3. 生活支援としてのサポートネットワークと地域間の相違
4. 調査の概要
5. インフォーマルサポートネットワークに関する調査結果の分析
6. 地方性、大都市郊外性、高齢化性、共通性からみた分析結果

1. 問題意識

わが国の認知症患者数は正確には把握されていないが、平成15年に厚生労働省老健局長の私的研究会である高齢者介護研究会が2002年9月末の「日常生活自立度Ⅱ以上」の認知症高齢者を149万人と推計した。さらに高齢者介護研究会は、この推計データと「日本の将来推計人口」に基づき認知症高齢者数の将来推計を行い、2005年には認知症高齢者が169万人、2010年には200万人を超え、平成2015年には250万人になるものと推計した¹。

このようにわが国の認知症高齢者が増加していくなか2005年4月には各界有識者、企業・団体、保健・医療・福祉団体などが中心となり、「認知症になっても安心して暮らせる町づくり100人会議」が結成された。また、厚生労働省は名称が痴呆から認知症に変わったのを受けて2005年を「認知症を知る1年」とし、認知症ケアの地域推進を打ち出した。

認知症になっても安心して暮らせる町づくりへの取り組みが全国的に進められるなか、大分県内でも認知症への取り組みがみられるようになってきた。自治体レベルでは、厚生労働省の「認知症を知り地域をつくる」キャンペーンの一環として進められている「認知症サポーター100万人キャラバン・認知症サポーター養成講座」をNPOと各市町村が協働して実施したり²、大分県が認知症地域医療支援事業として「認知症サポート医養成研修」や「かかりつけ

1 厚生労働省『認知症の医療と生活の質を高める緊急プロジェクト報告書』3頁 2008年7月

厚生労働省によれば、本推計は専門医の医学的判定により認知症と診断されたのではなく、認定調査員による「認知症高齢者の日常生活自立度」のデータを基に推計したものであり、要介護認定申請をしていない人は含まれていないことなどから、我が国における認知症の患者数を正確に反映しているとはいえない。

2 平成21年5月31日現在、大分県内の「キャラバン・メイト養成研修」「認知症サポーター講座」において認知症キャラバン・メイト（認知症サポーター養成講座の講師を務める人）が360人、認知症サポーターが11,467人養成されている。

医認知症対応力向上研修」を実施したりしている。また民間レベルにおいては、当事者団体である「認知症の人と家族の会」の支援活動があり、認知症予防や見守りなどを目的とした地域ぐるみの取り組みも活発になってきている。

こうした「認知症になっても安心して暮らすことのできる地域づくり」をより効果的に進めるためには地域の生活環境の実態を踏まえた対応が必要である。地方と大都市においては人口密度、近隣関係、福祉資源の立地状況などが大きく異なっている。過疎化した農村で高密度な東京と同じように地域づくりを進めても効果的ではないし、また不可能なことである。

そこで本論文では、地方と大都市の典型的な地域社会を比較調査することにより、地方において認知症高齢者³と家族を取り巻くサポートネットワークがどのようになっているのか、とりわけここではインフォーマルなサポートネットワークに焦点を当て、その態様がどのようになっているのかを明らかにする。

2. 認知症の進行段階と生活支援

認知症はゆっくりと徐々に進行するが、その進行段階は大きく前駆段階、初期段階、中期段階、後期段階の4段階に分けることができる⁴。この症状の進行段階と認知症サポートのあり方は密接に結びついている。

前駆段階は発病する以前の段階である。この段階は年齢相応の軽度の認知機能の低下を含む。初期段階では記憶障害や見当識障害が生じ始め、洋服の選択や入浴などの日常生活ではまだ介助を要しないが、重要な約束を忘れてしまったり迷子になったりし始め、次第に家計管理や買い物にも支障をきたすようになってくる。社会的判断力は通常保持されるが、自発性や意欲の低下、趣味や活動への関心の低下などが生じる。この初期段階は家族や周りの人々からは単なる老化の進行としか認識されず見逃されやすい。しかし、認知症の進行を防ぐにはこの段階での早期発見が重要である。中期段階では次第に認知障害・見当識障害がひどくなり、最近の出来事や人の名前も忘れてしまい、料理・掃除・買い物ができなくなって一人での自立生活

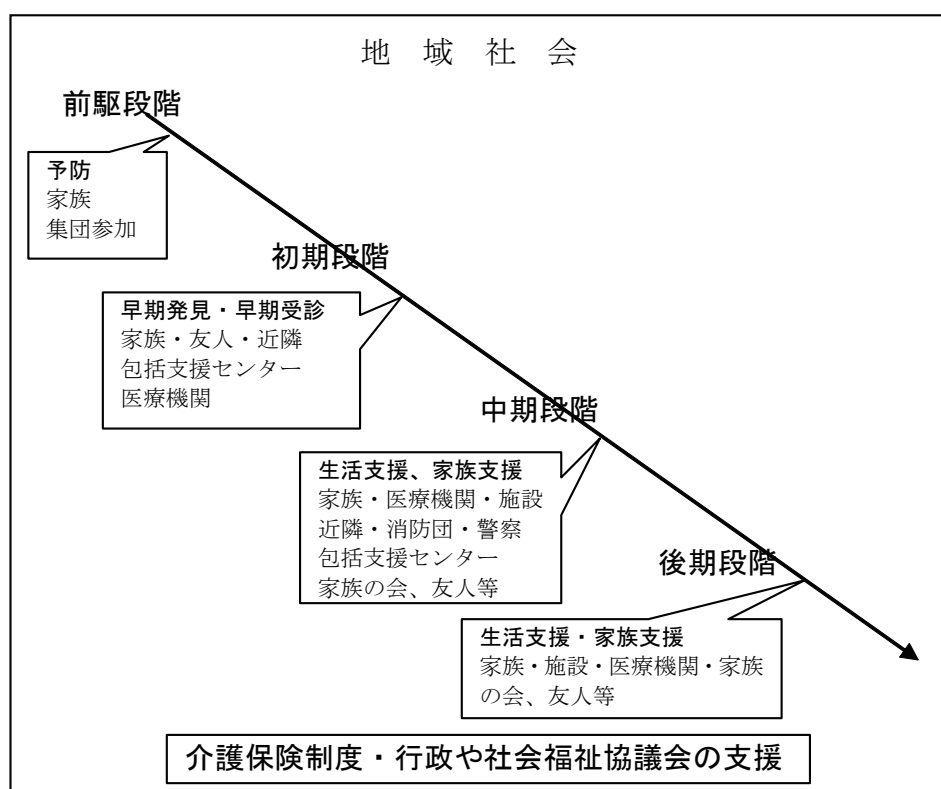
3 本論文では高齢化との関係から認知症高齢者を想定して考えている。しかし、認知症に罹るのは高齢者だけではない。働き盛りの年代が罹る若年性認知症も存在している。最近実施された調査では64歳以下の若年認知症と呼ばれる患者は全国に3.78万人いると推計されている。筑波大学大学院人間総合科学研究科 朝田隆「若年性認知症の実態と対応の基盤整備に関する研究」厚生労働省平成21年3月発表
<http://www.mhlw.go.jp/houdou/2009/03/h0319-2.html>

4 以下の4段階の記述は、CDR (Clinical Dementia Rating) とFAST (Functional Assessment Staging) に基づいている。CDRは5段階評価であるが、前駆段階は健康 (CDR 0) と認知症の疑い (CDR0.5)、初期段階は軽度認知症 (CDR 1)、中期段階は中等度認知症 (CDR 2)、後期段階は高度認知症 (CDR 3) に対応する。FASTは7段階評価であるが、前駆段階は1 (認知機能の障害なし：正常) と2 (非常に軽度の認知機能の低下：年齢相応)、初期段階は3 (軽度の認知機能の低下：境界状態) と4 (中等度の認知機能低下：軽度のアルハイマー型認知症)、中期段階は5 (やや重度の認知機能低下：中等度のアルハイマー型認知症) と6 (重度の認知機能低下：やや高度のアルハイマー型認知症)、後期段階は7 (非常に重度の認知機能低下：高度のアルハイマー型認知症) に対応している。日本認知症ケア学会編『改訂・認知症ケアの実践Ⅰ：総論』株式会社ワールドプランニング2009年1月85-89頁

が困難となる。月日の時間感覚や季節感が失われ、自分がどこにいるかもわからなくなってくる。子どもでも会わないでいると子どもであることの認識を喪失する。また、不安から極端に依存的となり、トイレ・洗浄・着服など衛生面の管理に介助が必要となる。尿失禁や便失禁も生じる。さらに徘徊やその他の異常行動が発生して家や地域社会で迷子になってしまったり、幻覚症状が生じたりすることもある。後期段階では身内・友人・身近なものの認識もできなくなってしまう、人によっては弄便などの異常行為が発生する。また、言語能力が低下し発語が減少する。末期には歩行能力が低下し、車いすやベッドで過ごす時間が多くなる⁵。

こうした進行段階と地域の生活支援との関係を考えると図1のごとくなる。前駆段階は認知症の予防が中心となる。認知症予防は認知症発症の危険因子を減らすことであるが、アルツハイマー型認知症の発症には運動・食事・知的活動・社会的ネットワークといった生活習慣や社会関係が大きく関連していることが指摘されている⁶。こうした生活習慣や社会関係に関連する予防活動は個人や家族で行われる場合もあれば、地域の様々な集団活動を通して行われる場合もある。今日、日本各地で「料理」や「回想法」等を用いたさまざまな認知症の予防活動がグループ活動として行われるようになってきている⁷。

図1 認知症の進行段階と地域社会



初期段階においては早期発見・早期受診が最も重要である。早期発見の意義としては、①治療可能な認知症疾患の鑑別診断、②本人と介護者のQOLの保持、③財産や介護に対する自己

5 WHO, Alzheimer's Disease: help for caregivers www.alz.co.uk/adi/pdf/helpforcaregivers

6 前述書『改訂・認知症ケアの基礎』p108-p111

7 大分県宇佐市安心院町の認知症予防活動はよく知られている。

決定の尊重の3点を挙げることができる⁸。認知症の発症を自分自身で自覚する場合は少なく、多くは周囲の人が異常に気づくことが多い。配偶者が気付く場合が最も多いが、子どもや兄弟姉妹、友人、近隣が気づく場合もある。周囲の人が異常に気づいたときにかかりつけ医や地域包括支援センター等に相談することが重要である。かかりつけ医や地域包括支援センターは認知症の疑いがあれば相談者に専門医を紹介することとなる。相談は認知症疾患の鑑別診断に繋がらなければならない。鑑別診断によりアルツハイマー型認知症と診断された場合には多くの場合、治療薬を用いて認知症の進行を遅延させることができ、在宅での生活が長く保持される。また、この時期には風呂やトイレなどを中心に安全な住環境の確保を図り、本人と介護者のQOLを保持することが求められる。さらに金銭管理・財産管理が次第に困難になることを想定して症状が悪化する前に本人が自己決定しておくことも必要である。

中期段階になれば、認知症高齢者の生活支援の困難性が一層増してくる。この段階においては身体にはまだ活動的な人が多い。しかし、料理・掃除・買い物ができなくなって自立生活が困難となり、見当識障害・徘徊・夜間の興奮などにより家族介護者の負担が大きくなる。このため介護サービスの利用も必要である。さらにこの段階では一人で外出し徘徊してしまう高齢者が増えてくる。徘徊を未然に防止することが重要であるが、徘徊してしまった場合には近隣・消防団・警察などの対応が求められる。

後期段階においては、中期段階の状態がさらに悪化し、配偶者や子どもさえも認識できなくなってしまう。このことが家族に与えるショックは大きい。しかし、急速な進行を少しでも防ぐためには家族や介護者とのコミュニケーションが重要である。

3. 生活支援としてのサポートネットワークと地域間の相違

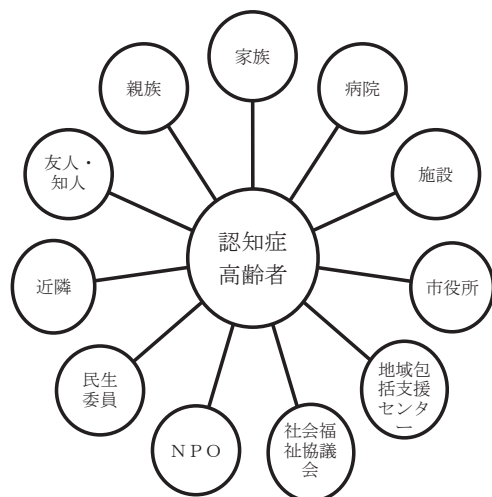
すでに述べたとおり、認知症の危険因子の一つとして社会ネットワークが挙げられる⁹。従って認知症を発症する前駆段階の認知症の予防において家族や親族、友人とのネットワークをもつことは重要である。しかしここでは、認知症が発症した初期段階以降の生活支援に係るネットワークをサポートネットワークとして考察することとする。

認知症のサポートネットワークはインフォーマルなサポートネットワークとフォーマルなサポートネットワークに分けられる。認知症高齢者の生活支援に係るインフォーマルサポートネットワークとしては家族・親族・友人・近隣とのネットワークがあげられ、フォーマルサポートネットワークとしては民生児童委員・NPO・社会福祉協議会・地域包括支援センター・市役所・福祉施設・病院といった制度化された集団とのネットワークがあげられる。図2は、認知症高齢者を中心にこれらのネットワークを図式化したものである。

8 日本認知症ケア学会編 『改訂・認知症ケアにおける社会資源』株式会社ワールドプランニング 2009年1月 p197-p198

9 Kondo K, Niino M, Shido K: A case-control study of Alzheimer's disease in Japan-significance of life-styles. *Dementia*, 5:314-326 (1994). この故近藤喜代太郎北大名誉教授等の認知症危険因子としてのライフスタイル研究は世界的評価を受けている。

図2 サポートネットワーク



認知症高齢者にとって最も身近な介護者は家族である。老夫婦二人暮らしの場合は配偶者が、二世代・三世代家族であれば子どもが介護者になる場合が多い。認知症が疑われる者を対象として東京都が行った「東京都在宅高齢者実態調査(専門調査)」によれば、主な介護者は「子どもやその配偶者」が23.2%と最も多く、次いで「配偶者(夫・妻)」が16.0%、「ホームヘルパー」が6.4%、「いない」が4.8%の順であった¹⁰。他に介護者がいる場合も「その他の親族」「孫やその配偶者」「親(配偶者の親も含む)」といった血縁者で、近隣や友人は皆無であった。

この東京都の調査は、認知症の人の在宅介護は専ら子どもや配偶者が担い、隣人は全く関与しないことを明らかにしている。しかし、こうした介護状況が地方の在宅介護においてどこまで妥当するのかは定かではない。なぜなら、在宅介護をめぐる地方と大都市の環境は大きく異なっているからである。地方においては多くの子どもが大都市に転出し近くには住んでいない。一方、大都市の子どもは地方に転出するよりも大都市圏内に留まることが多い。こうしたことが認知症高齢者の介護のあり方に反映する。地域における隣人との関係についても大都市と地方ではかなり異なっているものと考えられよう。職業が異なり移動性の高い大都市の近隣関係と比べて同じ土地に定着して農業を営む農村の近隣関係の方がより親密であろうことは容易に予想されるところである。

ここでは、地方における典型的な地域として大分県杵築市大田地区、杵築市中心市街地、大分市中心市街地、大分市郊外団地を取り上げ、大都市の典型的な地域として阪神都市圏郊外の宝塚市山手住宅地、宝塚市K団地を取り上げる。本論文ではこうした地域の比較調査を通して、地方と大都市との間の認知症サポートネットワークの相違をインフォーマルサポートネットワークに限定して明らかにしておくこととする。

10 比率が低いのは「介護を必要としない」(27.6%)「無回答」(20.0%)の比率が高かったためである。この二つの項目を除いた場合「介護を必要としない」44.3%、「無回答」30.5%、「ホームヘルパー」12.2%、「いない」9.2%となる。

4. 調査の概要

1) 調査対象地域の特徴

調査対象地域として取り上げる杵築市大田地区は山間過疎地域の典型であり、杵築市中心市街地は地方小都市市街地の、大分市中心市街地は地方中都市中心市街地の、大分市郊外団地は地方中都市郊外の典型である。一方、宝塚市山手住宅地は大都市郊外住宅地の、宝塚市K団地は初期に開発された大都市郊外公団地の典型である。

山間にある過疎農村である杵築市大田地区は大分県国東半島のほぼ中央地域に位置し、六郷満山の一角を占めている。地区内には石造美術を中心とした文化財が数多く残されている。毎年秋に催される白髭田原神社の「どぶろく祭り」は全国的にも有名である。平成17年10月に合併した旧大田村の平成12年国勢調査人口は1,906人で、65歳以上の高齢化率が42.9%と大分県で最も高齢化率の高い村であった。平成12年国勢調査以降も人口減少・高齢化はさらに進行し、平成19年6月30日時点での大田地区の住民登録人口は1,730人、高齢化率は47.5%であった。

平成19年6月30日現在の杵築市全体の住民登録人口は33,892人、高齢化率は29.7%であった。地方小都市中心市街地の典型事例として取り上げた杵築市中心市街地は、明治22年町村施行時の杵築町の範囲である。平成19年6月30日現在の住民登録人口は8,652人であった。高齢化率が30%を超える地区は32地区のうちの14地区を占め、これらのうち最も高化率の高い地区は45.5%に達していた。

県庁所在都市であり中規模都市である大分市の平成19年9月末現在の住民登録人口は469,338人であった¹¹。大分市中心市街地は都心に隣接し、一部に商業地域や古い住宅地を含む変化の目立つ地域である。地域には若い世代の住むアパートやマンションが増加している。この中心市街地において調査対象地域に選んだのは高齢化率が30%を超えるU町（31.3%）、S町（42.0%）、M町（30.5%）R町（31.9%）である。

大分市郊外には昭和40年代に開発された住宅団地が多い。大分市は昭和39年に新産都市の指定を受けて以来、新日鉄等の大企業の立地により人口が増加し、昭和40年代には郊外住宅団地の開発が活発になった。調査対象として選定したT団地・M団地は昭和40年代初期に開発された一戸建て中心の団地である。調査時点における高齢化率はT団地34.5%、M団地32.9%であった。

宝塚市は大阪都市圏、神戸都市圏の郊外に位置している。調査対象とした山手住宅地は大阪市梅田と宝塚を結ぶ阪急宝塚線、兵庫県西宮と宝塚を結ぶ今津線沿線の山麓に開発された住宅地である。選定した住宅地（町）はいずれも平成20年10月現在の住民登録による高齢化率が30%を超える町である。これらの住宅地は高度経済成長期の昭和40年代初期に開発されたものが多い¹²。

宝塚市K団地は今津線の山手にある自然環境豊かな日本住宅公団（現独立行政法人都市再生機構）の団地である。昭和34年（1959年）から入居が始まり、入居開始時においては中層・テ

11 大分市の人口はまだ増加傾向にあり、平成21年7月末現在の人口は473,324人となっている。

12 高度経済成長期における宝塚市の住宅形成については大道安次郎・奥田憲昭著の『変貌する周辺都市 宝塚市のケース・スタディ』恒星社厚生閣 第2章「住宅地形成とその変遷」に詳しい。

ラス型式のモデル郊外団地であった。戸数は3K・2DKを中心に422戸あった。しかし、平成18年3月から再生事業が開始され、空き家は募集停止となっている。現在は、中高層住宅地区と中低層住宅地区の2地区に区分して住民の住み替えを行い、新たな住宅団地の建設が開始されている。調査対象となったのは自治会に加入している298世帯である。平成20年11月現在の高齢化率は44.4%で宝塚市内において最も高い高齢化率となっていた。

2) 調査方法と調査内容

調査対象となる地域は、できるだけ認知症を身近な問題として関心をもつ人々の多い地域を選出するためにすべて高齢化率が30%を超える地域を選出した。調査対象はその地域における全ての世帯とした¹³。調査表の配布方法は各市によって異なっている¹⁴。杵築市は行政を通じて区会（自治会）会長が配布回収した。また、大分市は対象地域の自治会長に依頼し自治会長が配布・回収した。宝塚市は自治会長に依頼して自治会長が配布し、解答用紙は郵送回収とした。また、自治会長の同意を得られなかった一部地域においては各世帯に直接配布し郵送回収した。回答者は指定せず誰が回答してもよいこととした。調査世帯数、調査期間、回収率、回収枚数は表1のとおりである。

表1 調査世帯数と回収率

	杵築市 大田地区	杵築市 中心市街地	大分市 中心市街地	大分市 郊外住宅地	宝塚市 山手住宅地	宝塚市 K団地
調査世帯数	718世帯	514世帯	826世帯	750世帯	4539世帯	298世帯
調査期間	平成20年 1/17-2/7	平成20年 1/16-2/7	平成20年 2/1-2/15	平成20年 2/1-2/15	平成20年 11/8-12/20	平成20年 11/20-12/20
回収率	83.1%	81.5%	65.7%	78.0%	37.7%	36.2%
回収枚数	597枚	419枚	543枚	585枚	1712枚	108枚

質問項目は大きく、①回答者の基本属性、②日常生活におけるサポートネットワーク、③認知症に関連するサポートネットワークといった3つの部門からなっている。回答者の基本属性においては性別・年齢・居住年数について、日常生活におけるサポートネットワークにおいてはインフォーマルネットワークやフォーマルネットワークについて質問した。認知症サポートネットワークに関連した質問項目は、家族に認知症の人がいない場合のサポートネットワークに関連した項目、家族に認知症の人がいる場合のサポートネットワークに関連した項目、さらには両者に共通する項目に分けて構成した。

13 自治会を通じて配布したところは自治会への加入世帯に限られている。宝塚市第4次総合計画によれば宝塚市の自治会への加入率は低下傾向にあり平成16年の自治会加入率は73.99%であった。

14 筆者は当初、調査内容から各市とも民生委員の協力を得て調査する計画を立てたが、調査対象を全世帯としたため民生委員の人数からして配布回収するのが大変であることがわかり、計画を変更し自治会の協力を得ることにした。しかし、調査をするなかで自治会のあり方、とりわけ行政と自治体の関係が杵築市と大分市と宝塚市ではずいぶん違うことがわかった。各市によって調査方法が異なるのは認知症調査にたいする自治会の対応のあり方の違いから生じたものである。

本論文の分析においては、上の3つの質問項目のうち、①及び②のインフォーマルサポートネットワークに関連する項目を取り上げて分析することとする。家族や地域のネットワークについての質問は認知症と直接関連させて質問したものではない。しかし、先に述べたとおり家族や地域は認知症ケアと密接に結びついており、これらのネットワークは認知症のケア環境を形成する重要なサポートネットワークとして理解される。

3) 調査結果の分析視点

調査結果の分析においては、地域間比較から、①地方4地域の特徴（地方性の発見）、②大都市郊外の特徴（大都市郊外性の発見）、③高齢化率が特に高い杵築市大田村と宝塚市K団地に共通する傾向（高齢化性の発見）、④全地域及び地方と大都市郊外に共通する傾向（共通性の発見）といった視点を重視することとする。なお、ここで地方性とは杵築市大田地区・杵築市中心市街地・大分市中心市街地・大分市郊外団地にみられる特色であり、大都市郊外性とは宝塚市山手住宅地や宝塚市K団地にみられる特色である。ここでの地方性には地方の山間農村、小都市、中都市の特色が含まれ、郊外性には郊外住宅地と公団団地の特色が含まれている。

5. インフォーマルサポートネットワークに関する調査結果の分析

1) 回答者の基本属性

①性別

各地域とも「女性」の回答率が高い。なかでも大分市郊外団地の比率が62.2%と最も高く、大分市中心市街地（61.9%）、宝塚市K団地（61.1%）、宝塚市山手住宅地（60.0%）の3地域が60%を超えている。「男性」においては杵築市大田地区が47.7%と最も高くなっている。

表2 性別

%, () は人数

	杵築市 大田地区	杵築市 中心市街地	大分市 中心市街地	大分市 郊外団地	宝塚市 山手住宅地	宝塚市 K団地
男 性	47.7	41.8	36.6	37.3	39.7	38.0
女 性	50.9	56.8	61.9	62.2	60.0	61.1
無回答	1.3	1.4	1.5	0.5	0.3	0.9
合 計	100.0 (597)	100.0 (419)	100.0 (543)	100.0 (585)	100.0 (1712)	100.0 (108)

②年齢

高齢者を前期高齢者と後期高齢者に区分することを目的として、年齢階層を50歳代までを10歳区分とし、60歳以上を5歳区分として設定した。「65歳以上」は宝塚市K団地が71.3%と最も高く、次いで杵築市大田地区63.7%、宝塚市山手住宅地61.5%、大分市郊外団地60.0%、杵築市中心市街地56.0%、大分市中心市街地48.3%となっている¹⁵。「80歳以上」は杵築市大田地

15 この高齢化率はいずれの地域も住民登録に基づく高齢化率よりもずいぶん高い高齢化率になっている。このことは実際に調査に回答していただいた方々は認知症に関心をもつ65歳以上の高齢者が多かったことを意味している。なかでも杵築市大田地区、宝塚市K団地では80歳を超える方が20%を超えている。このことは驚きであるとともに質問数の多い調査票に回答していただいたことに感謝の意を表する次第である。

区、宝塚市K団地において23.8%、22.2%と特に高くなっている。宝塚市K団地は「75歳以上」の後期高齢者の比率が39.8%と最も高く、次いで杵築市大田地区の38.9%が高くなっている。

一方、大分市郊外団地は後期高齢者の比率が19.3%と最も低い。これは団地の開発時期と関係している。宝塚市山手住宅地は65-74歳の前期高齢者の比率が35.3%と最も高い。このことは宝塚市山手住宅地においては、後期高齢者が今後急速に増加していくことを示している。前期高齢者の比率は、宝塚市山手住宅地に次いで宝塚市K団地が31.5%、大分市郊外団地が30.7%と高くなっている。大分市中心市街地においては「50-59歳」の比率が23.6%と高くなっている。

③居住年数

居住年数は10年刻みで回答を求めた。「居住年数40年以上」の比率は、杵築市大田地区が66.3%と最も高く、次いで杵築市中心市街地48.0%、大分市中心市街地33.5%、宝塚市K団地27.8%、宝塚市山手住宅地7.5%、大分市郊外団地1.2%の順となっている。このことは、歴史の古い地方の山間過疎農村や小都市の中心市街地では居住年数の長い人が多いことを示している。「居住年数30-39年」の比率は、大分市郊外団地が45.0%と最も高く、次いで宝塚市山手住宅地の40.2%となっている。この比率は、大分市郊外団地と宝塚市山手住宅地では、ほぼ同時期に入居した人が多いことを示している。また、大分市中心市街地はアパートやマンションが多いことから居住年数「9年以下」の比率が16.8%と最も高くなっている。宝塚市K団地においては「9年以下」の比率が2.8%と特に低い。これは団地の再生計画のため入居者を停止しているためである。しかし、他地域と比較して「10-19年」の比率は、21.3%と高く、この間入居者の出入りが多かったことを示している。

表3 年齢

%, () は人数

	杵築市 大田地区	杵築市 中心市街地	大分市 中心市街地	大分市 郊外団地	宝塚市 山手住宅地	宝塚市 K団地
29歳以下	1.2	1.7	1.5	0.3	0.4	0.0
30-39歳	2.7	6.0	4.2	5.0	4.3	1.9
40-49歳	7.5	6.7	9.4	8.5	6.4	5.6
50-59歳	15.7	17.7	23.6	17.9	13.9	11.1
60-64歳	8.2	11.2	11.6	17.6	14.3	9.3
65-69歳	9.7	10.5	11.4	15.7	17.3	13.0
70-74歳	15.1	15.0	12.0	15.0	18.0	18.5
75-79歳	15.1	12.4	13.3	11.3	14.1	17.6
80歳以上	23.8	18.1	11.6	8.0	11.1	22.2
無回答	1.0	0.7	1.5	0.5	0.1	0.9
合 計	100.0(597)	100.0(419)	100.0(543)	100.0(585)	100.0(1712)	100.0(108)

表 4 居住年数

%, () は人数

	杵築市 大田地区	杵築市 中心市街地	大分市 中心市街地	大分市 郊外団地	宝塚市 山手住宅地	宝塚市 K団地
9年以下	6.9	13.4	16.8	12.8	14.5	2.8
10-19年	5.4	9.3	14.7	13.3	14.7	21.3
20-29年	7.2	11.2	16.4	26.5	22.8	15.7
30-39年	11.9	16.2	17.7	45.0	40.2	31.5
40年以上	66.3	48.0	33.5	1.2	7.5	27.8
無回答	2.3	1.9	0.9	0.2	0.4	0.9
合 計	100.0(597)	100.0(419)	100.0(543)	100.0(585)	100.0(1712)	100.0(108)

2) 家族ネットワーク

①家族構成

介護との関連性を考慮して家族を、「単身（一人暮らし）」「夫婦（共に75歳以上）」「夫婦（1人が75歳以上）」「夫婦（共に75歳未満）」「二世世代家族（子と同居）」「二世世代家族（親と同居）」「三世世代家族（子・孫と同居）」「三世世代家族（親と子の同居）」「その他」に分類した。

「単身（一人暮らし）」の比率は、宝塚市K団地が41.7%と突出して高く、次いで杵築市大田地区27.1%、杵築市中心市街地21.0%、宝塚市山手住宅地13.8%、大分市郊外団地10.9%となっている。「夫婦2人（共に75歳未満）」では大分市郊外団地の比率が32.6%と最も高く、次いで宝塚市山手住宅地が29.3%と高くなっている。「二世世代家族（子どもと同居）」の比率は大分市郊外団地が27.4%と最も高く、次いで宝塚市山手住宅地25.7%、大分市中心市街地の24.3%となっている。宝塚市K団地においては「夫婦2人（1人が75歳以上）」「夫婦2人（共に75歳以上）」の比率がともに10.2%と最も高くなっている。家族構成だけから見ると家族のサポート力は現段階においては「単身（一人暮らし）」の比率が高い宝塚市K団地が最も弱く、次いで杵築市大田地区が弱いといえよう。

表 5 家族構成

%, () は人数

	杵築市 大田地区	杵築市 中心市街地	大分市 中心市街地	大分市 郊外団地	宝塚市 山手住宅地	宝塚市 K団地
単身（一人暮らし）	27.1	22.9	21.0	10.9	13.8	41.7
夫婦（共に75歳以上）	9.0	6.7	6.3	6.8	7.8	10.2
夫婦（1人が75歳以上）	8.2	7.2	4.6	7.2	9.9	10.2
夫婦（共に75歳未満）	17.9	20.3	19.3	32.6	29.3	18.5
二世世代家族（子と同居）	11.9	21.0	24.3	27.4	25.7	9.3
二世世代家族（親と同居）	9.2	8.1	7.4	4.1	4.0	5.6
三世世代家族（子・孫と同居）	4.5	4.5	4.4	2.4	3.1	0.0
三世世代家族（親と子と同居）	5.4	2.9	4.1	1.9	2.7	0.9
その他	4.0	4.5	6.1	5.3	3.5	2.8
無回答	2.7	1.9	2.6	1.4	0.2	0.9
合計	100.0(597)	100(419)	100.0(543)	100.0(585)	100.0(1712)	100.0(108)

②子ども数

いずれの地域においても「子ども 2 人」の比率が最も高い。宝塚市山手住宅地と大分市郊外団地が57.2%・56.4%と特に高くなっている。「子ども3人」の比率は杵築市大田地区が28.0%と最も高く、次いで杵築市中心市街地が21.5%と高くなっている。「子どもがいない」においては宝塚市K団地が35.2%と特に高く、宝塚市山手住宅地と大分市郊外団地が7.9%、8.0%と低くなっている。「子ども 3 人」「子ども 4 人」ではいずれも杵築市大田地区の比率が28.0%、7.9%と最も高く、かつては都市に比べて農村の出生力が高かったことを示している。一方、宝塚市K団地は「子ども 3 人」が8.3%、「子ども 4 人」以上は皆無となっている。

③最も近くにいる子どもの居住地

「子どもと同居している」比率は、大分市中心市街地が36.8%、大分市郊外団地が36.4%と高くなっている。宝塚市K団地、杵築市大田地区では12.0%、24.3%と低くなっている。一方、「片道1時間未満」では杵築市大田地区、宝塚市山手住宅地がともに27.3%と高く、次いで大分市郊外団地26.7%、宝塚市K団地23.1%と続き、杵築市中心市街地と大分市中心市街地が14.1%、17.5%と低くなっている。杵築市大田地区、宝塚市K団地では「1 時間以上・3 時間未満のところ」が16.1%、15.7%と高くなっている。

表 6 子ども数

%, () は人数

	杵築市 大田地区	杵築市 中心市街地	大分市 中心市街地	大分市 郊外団地	宝塚市 山手住宅地	宝塚市 K団地
いない	10.6	14.6	15.7	8.0	7.9	35.2
1 人	9.9	15.3	14.5	16.6	14.8	14.8
2 人	38.0	40.1	44.6	56.4	57.2	40.7
3 人	28.0	21.5	19.3	15.7	17.3	8.3
4 人	7.9	4.3	2.8	1.5	1.6	0.0
5 人以上	1.8	1.2	1.1	0.5	0.4	0.0
無回答	3.9	3.1	2.0	1.2	0.7	0.9
合計	100.0(597)	100.0(419)	100.0(543)	100.0(585)	100.0(1712)	100.0(108)

表 7 最も近くにいる子どもの居住地

%, () は人数

	杵築市 大田地区	杵築市 中心市街地	大分市 中心市街地	大分市 郊外団地	宝塚市 山手住宅地	宝塚市 K団地
子どもはいない	8.2	11.9	12.3	6.8	6.1	29.4
同居している	24.3	35.1	36.8	36.4	33.1	12.0
同一敷地内の別棟	3.5	4.1	4.4	1.0	1.1	0.9
マンションなど同一建物	1.5	1.0	1.1	0.2	0.4	0.0
徒歩15分以内	3.0	8.1	9.0	7.0	6.9	8.3
片道1時間未満	27.3	14.1	17.5	26.7	27.3	23.1
1時間以上・3時間未満	16.1	11.2	5.5	6.8	12.7	15.7
3時間以上	7.0	7.4	5.2	10.6	9.9	4.6
無回答	9.1	7.2	8.1	4.4	2.6	5.6
合計	100.0(597)	100.0(419)	100.0(543)	100.0(585)	100.0(1712)	100.0(108)

④別居している子どもの実家への帰宅頻度

全体として無回答の比率が高くなっていることもあり、各地域とも突出して高い比率を示している項目は存在しない。杵築市中心市街地、大分市中心市街地、大分市郊外団地、宝塚市山手住宅地では「半年に1回程度」の比率が17.2%、14.4%、16.4%、22.8%と最も高い。杵築市大田地区においては他地域と比較して「月に1回程度」「週に1回程度」の比率が17.8%、15.1%と高い。「毎日のように」の比率は大分市中心市街地が10.3%と高くなっている。

⑤きょうだいの人数

杵築市大田地区では「3人」「5人以上」の比率が20.1%、18.1%と特に高くなっている。宝塚市K団地・杵築市中心市街地・大分市中心市街地では「2人」が25.0%、23.2%、23.2%と最も高く、宝塚市山手住宅地・大分市郊外団地では「1人」の比率が25.1%、20.2%と最も高い。また、宝塚市K団地も「1人」の比率が21.3%と高くなっている。

表8 別居している子どもの実家への帰宅頻度

%, () は人数

	杵築市 大田地区	杵築市 中心市街地	大分市 中心市街地	大分市 郊外団地	宝塚市 山手住宅地	宝塚市 K団地
毎日のように	5.0	8.1	10.3	6.3	4.6	3.7
週に1回程度	15.1	11.9	13.1	13.0	10.4	10.2
2週間に1回程度	11.4	5.3	5.9	8.9	9.2	10.2
月に1回程度	17.8	14.1	10.5	15.6	19.9	15.7
半年に1回程度	15.4	17.2	14.4	16.4	22.8	11.1
年に1回程度	6.2	6.4	4.1	7.2	5.7	1.9
2年に1回程度	2.0	0.5	1.5	1.5	0.8	0.0
めったに帰ってこない	2.2	3.3	3.3	4.4	2.8	5.6
無回答	25.0	33.2	37.0	26.7	23.8	41.7
合計	100.0(597)	100.0(419)	100.0(543)	100.0(585)	100.0(1712)	100.0(108)

表9 きょうだいの人数

%, () は人数

	杵築市 大田地区	杵築市 中心市街地	大分市 中心市街地	大分市 郊外団地	宝塚市 山手住宅地	宝塚市 K団地
いない	11.1	10.0	9.4	7.4	10.4	13.0
1人	15.4	17.2	19.2	20.2	25.1	21.3
2人	16.4	23.2	23.2	18.8	23.9	25.0
3人	20.1	16.5	19.3	19.8	18.6	18.5
4人	15.6	11.9	13.6	19.8	12.3	9.3
5人以上	18.1	16.9	12.5	13.2	8.9	10.2
無回答	3.4	4.3	2.8	0.9	0.8	2.8
合計	100.0(597)	100.0(419)	100.0(543)	100.0 (585)	100.0(1712)	100.0(108)

⑥ 1 時間以内の距離に住んでいるきょうだいの人数

1 時間以内の距離に住んでいる「きょうだいはいない」が宝塚市山手住宅地、宝塚市 K 団地が、53.0%、50.9%と高くなっている。一方、宝塚市地域に比べて大分県内地域の「いない」の比率は低く、特に杵築市大田地区、大分市中心市街地の比率が24.1%、25.0%となっている。「きょうだい 1 人」の比率は、杵築市中心市街地が34.1%と最も高く、次いで杵築市大田地区32.2%、大分市中心市街地29.5%、大分市郊外団地25.6%となっている。宝塚市 K 団地、宝塚市山手住宅地は24.1%、24.0%とともに低い。「きょうだい 2 人」の比率においても、大分市中心市街地20.3%、杵築市大田地区18.3%、杵築市中心市街地16.7%、大分市郊外団地14.4%と大分県 4 地域の比率が高く、宝塚市山手住宅地、宝塚市 K 団地は10.5%、9.3%と低くなっている。「きょうだい 3 人」以上は全体として比率が低くなるが、それでも大分県 4 地域は宝塚市 2 地域よりも高くなっている。

表10 1 時間以内の距離に住んでいるきょうだいの人数

%, () は人数

	杵築市 大田地区	杵築市 中心市街地	大分市 中心市街地	大分市 郊外団地	宝塚市 山手住宅地	宝塚市 K 団地
いない	24.1	26.5	25.0	38.5	53.0	50.9
1 人	32.2	34.1	29.5	25.6	24.0	24.1
2 人	18.3	16.7	20.3	14.4	10.5	9.3
3 人	8.2	6.9	9.9	8.5	3.5	1.9
4 人	3.2	2.9	3.3	3.9	1.0	1.9
5 人以上	1.7	1.2	2.8	2.1	0.8	0.9
無回答	12.4	11.7	9.2	0.2	7.3	11.1
合計	100.0(597)	100.0(419)	100.0(543)	100.0(585)	100.0(1712)	100.0(108)

3) 地域ネットワーク

①近隣関係

近隣関係のあり方は介護との関係を考慮し、「病気になった時に、家に上がって介護してくれる親しい隣人がいる」「介護以外で何か困った時に、助け合う親しい隣人がいる」「お互いに訪問し、話し合う隣人がいる」「玄関先や玄関前で立ち話をする隣人がいる」「挨拶をする程度の隣人がいる」「挨拶をする隣人はいない」の 6 段階に分けて質問した。

杵築市大田地区は、他地域と比較して「病気になった時に介護」「困った時に助け合う（介護以外）」「訪問し話し合う」の比率が10.2%、21.8%、25.5%と最も高くなっている。「玄関先で立ち話をする」では、宝塚市山手住宅地が41.8%と最も高く、次いで大分市郊外団地、大分市中心市街地が高くなっている。「挨拶をする程度」においては宝塚市 K 団地が35.2%、大分市中心市街地が28.2%と高くなっている。これらの結果は、杵築市大田地区が他の都市的地域と比較して突出して近隣との結びつきが強いことを示している。

表11 近隣関係

%() は人数

	杵築市 大田地区	杵築市 中心市街地	大分市 中心市街地	大分市 郊外団地	宝塚市 山手住宅地	宝塚市 K団地
病気になった時に介護	10.2	7.4	6.1	5.1	4.3	3.7
困った時に助け合う(介護以外)	21.8	16.7	15.7	17.3	15.4	15.7
訪問し話し合う	25.5	21.2	12.5	15.9	14.7	10.2
玄関先で立ち話する	24.8	27.9	33.0	35.0	41.8	32.4
挨拶する程度	11.7	20.3	28.2	24.1	23.1	35.2
挨拶する人はいない	1.2	1.2	1.1	0.9	0.2	1.9
無回答	4.9	5.3	3.5	1.7	0.6	0.9
合計	100.0(597)	100.0(419)	100.0(543)	100.0(585)	100.0(1712)	100.0(108)

表12 集団参加

複数回答 %, () は人数

	杵築市 大田地区	杵築市 中心市街地	大分市 中心市街地	大分市 郊外団地	宝塚市 山手住宅地	宝塚市 K団地
自治会	19.0	25.9	41.0	46.7	49.2	50.8
老人クラブ	29.6	20.7	11.6	10.9	6.8	11.1
民生・児童委員会	1.5	1.8	3.7	1.1	0.9	0.8
文化サークルや団体	6.4	13.6	10.4	11.1	13.5	8.7
スポーツサークルや団体	11.9	13.9	12.4	15.2	13.4	12.7
子育てグループ・団体	0.3	0.5	0.8	1.3	0.7	1.6
ボランティア団体	4.0	6.8	5.7	5.7	8.7	6.3
NPO 団体	0.1	0.7	2.0	0.8	1.7	0.8
消費者団体	0.8	0.5	0.2	0.7	0.8	0.0
婦人会	1.2	3.9	1.2	2.4	0.5	0.8
氏子組織	19.2	4.8	2.0	0.3	0.1	0.0
その他	6.0	7.0	9.2	3.9	3.8	6.3
合計	100.0(917)	100.0(440)	100.0 (510)	100.0(718)	100.0 (2665)	100.0(126)

②集団参加

地域集団として自治会、老人クラブ、民生・児童委員会、文化関係のサークルや団体、スポーツ関係のサークルや団体、子育てグループ・団体、ボランティア団体、NPO団体、消費者団体、婦人会、氏子組織を挙げた。

全体として自治会の比率が最も高く、宝塚市K団地50.8%、宝塚市山手住宅地49.2%、大分市郊外団地46.7%、大分市中心市街地41.0%、杵築市中心市街地25.9%、杵築市大田地区19.0%となっている。杵築市大田地区、杵築市中心市街地の自治会への参加率が低くなっているが、これは杵築市においては自治会にあたるものを区会と呼んでいるためと考えられる。区会も自治会と同様の住民自治組織である。しかし、杵築市の区会の場合、大分市や宝塚市の自治会と比較して行政との関係がより密接である¹⁶。大分市に比べても宝塚市の比率が高いのが

16 杵築市の回答者は質問用紙において「自治会」とあったため、「区会」と「自治会」は別の組織として理解されてこうした結果になったものと考えられる。筆者は日田市の旧5町村で同様の調査を行ったが、自治会への参加者は29.1%～44.9%の間にあった。いずれにしても杵築市、大分市、宝塚市の自治会のあり方はかなり異なっている。このことが結果として本調査の調査方法の違いとなって現われている。

注目される。これは阪神淡路大震災後の宝塚市のまちづくりが影響しているものと考えられる¹⁷。

老人クラブへの参加率は杵築市大田地区29.6%、杵築市中心市街地20.7%、大分市中心市街地11.6%、宝塚市K団地11.1%、大分市郊外団地10.9%、宝塚市山手住宅地6.8%の順に高くなっている。他地域と比較して杵築市大田地区と杵築市中心市街地の参加率が高くなっている点が注目される。

杵築市中心市街地、宝塚市山手住宅地においては「文化サークルや団体」が13.6%、13.5%と高く、大分市郊外団地においては「スポーツサークルや団体」の比率が15.2%と高くなっている。杵築市大田地区では氏子組織への参加率が19.2%と高い。これに対して宝塚市山手住宅地と宝塚市K団地の参加率は0.1%、0.0%と皆無に等しい。このことは高度経済成長時代に開発された大都市郊外住宅地には氏子組織のような伝統的地域組織は存在しないことを意味している。

③家族の介護で困ったときの相談相手

最後にインフォーマルな地域ネットワークに関係するものとして家族の介護で困った時の相談相手を取り上げる。家族の介護で困った時の相談相手は各地域とも「家族や親族」の比率が圧倒的に高くなっている。杵築市大田地区を除く他の5地域では「友人・知人」の比率が10.0%を超えてやや高くなっている。杵築市大田地区では「隣近所の人」の比率が8.9%とやや高くなっているが。杵築市大田地区以外の地域はいずれも5%以下の比率に留まっている。宝塚市K団地、宝塚市山手住宅地においては市役所の窓口が13.7%、11.4%と家族や親族に次いで高くなっている点が注目される。

表13 家族の介護で困ったときの相談相手

複数回答 %, () は人数

	杵築市 大田地区	杵築市 中心市街地	大分市 中心市街地	大分市 郊外団地	宝塚市 山手住宅地	宝塚市 K団地
家族や親族	36.6	36.4	40.5	37.1	35.1	32.6
友人・知人	6.1	10.4	10.3	10.8	11.3	10.1
隣近所の人	8.9	4.8	3.6	3.5	3.7	2.2
民生委員	5.2	6.3	3.5	3.1	2.5	4.8
地域包括支援センター	1.8	2.3	5.0	6.4	7.8	7.5
市役所の窓口	6.2	8.9	8.3	8.9	11.4	13.7
訪問保健師・ ホームヘルパー等	6.6	6.1	7.3	6.0	6.6	6.6
病院・診療所	11.2	11.7	13.6	13.0	10.5	11.9
介護保健施設	6.9	8.1	5.8	8.9	7.6	5.3
社会福祉協議会	10.0	4.2	1.1	1.5	3.0	4.4
薬局・介護用品店	0.3	0.1	0.3	0.1	0.2	0.0
その他	0.3	0.7	0.6	0.6	0.4	0.9
合計	100.0 (1281)	100.0(863)	100.0(1063)	100.0(1306)	100.0(3917)	100.0(227)

17 宝塚市は小学校単位に「まちづくり協議会」をつくり、協働のまちづくりを進めていることで全国的に知られている。田中義岳『市民自治のコミュニティをつくろう～宝塚市・市民の10年取り組みと展望～』ぎょうせい 出版社 2002年

6. 地方性、大都市郊外性、高齢化性、共通性からみた分析結果

以上、杵築市大田地区、杵築市中心市街地、大分市中心市街地、大分市郊外団地、・宝塚市山手住宅地、宝塚市K団地の比較を通じて認知症インフォーマルサポートネットワークとしての家族ネットワークと地域ネットワークの調査結果を明らかにしてきた。これらの調査結果から見出された各地域のインフォーマルサポートネットワークから地方性、大都市郊外性、高齢化性、共通性を抽出すると以下のとおりである。

(1) 地方性

杵築市大田地区（山間過疎農村）の特徴としては、次の点が指摘される。①年齢「80歳以上」の比率が23.8%と最も高い。②居住年数「40年以上」が66.3%を占め、居住年数の長い人が多い。③单身（一人暮らし）の比率が27.1%と高い。④子ども数「3人」の比率が28.0%と高く、子ども数が多い。⑤子どもが片道1時間未満の範囲に居住している比率が宝塚市山手住宅地とともに27.3%と高い。⑥別居している子どもの実家への帰宅頻度において「週に1回程度」「2週間に1回程度」の比率が11.4%と最も高い。⑦きょうだいの人数において「3人」「5人以上」の比率が20.1%、18.1%と高く、きょうだいが多い。⑧1時間以内の距離に住んでいるきょうだいが「1人」の比率が32.2%と杵築市中心市街地に次いで高い。⑨近隣関係において「病気になった時に介護」「困った時に助け合う（介護以外）」「訪問し話し合う」の比率が10.2%、21.8%、25.5%と高く、近隣関係が特に親密である。⑩集団参加において「老人クラブ」「氏子組織」への参加率が29.6%、19.2%と高い。⑪家族介護で困った時の相談相手において「社会福祉協議会」「隣近所の人」の比率が10.0%、8.9%と高い。

杵築市中心市街地（地方小都市中心市街地）の特徴としては、次の点が指摘される。①居住年数「40年以上」が48.0%を占め、居住年数の長い人が杵築市大田地区に次いで多い。②子ども数「3人」の比率が21.5%と高く、子ども数が杵築市大田地区に次いで多い。③きょうだいの人数において「5人以上」の比率が16.9%と高い。④1時間以内の距離に住んでいるきょうだいが「1人」の比率が34.1%と最も高い。⑤近隣関係において「病気になった時に介護」「訪問し話し合う」の比率が7.4%、21.2%と杵築市大田地区に次いで高く、近隣関係が親密である。⑥集団参加において「文化サークルや団体」の比率が13.6%と最も高く、「老人クラブ」「氏子組織」への参加率が20.7%、4.8%と杵築市大田地区に次いで高い。⑦家族介護で困った時の相談相手において「民生委員」の比率が6.3%と高い。

大分市中心市街地（地方中都市中心市街地）の特徴としては、次の点が指摘される。①年齢「50-59歳」の比率が23.6%と最も高い。②居住年数「9年以下」の比率が16.8%と最も高い。③子どもと「同居している」比率が36.8%と最も高い。④別居している子どもが「毎日のように」帰ってくる比率が10.3%と高い。⑤1時間以内の距離に住んでいるきょうだいが「2人」の比率が20.3%と最も高い。⑥近隣関係において「挨拶する程度」が28.2%と最も高く近隣関係は弱い。⑦家族介護で困った時の相談相手において「家族や親族」の比率が40.5%と最も高い。

大分市郊外団地（地方中都市郊外団地）の特徴としては、次の点が指摘される。①年

齢「80歳以上」の比率が8.0%と最も低い。②「居住年数30-39年」の比率が最も高く、「居住年数40年以上」の比率が1.2%と最も低い。③家族構成において「夫婦（共に75歳未満）」の比率が32.6%と最も高い。④家族構成において「二世世代家族（子と同居）」の比率が27.4%と最も高い。⑤家族構成において「単身（一人暮らし）」の比率が10.9%と最も低い。⑥子ども数「2人」の比率が56.4%と宝塚市山手住宅地に次いで高い。⑦子どもと「同居している」比率が36.4%と、大分市中心市街地に次いで高い。⑧きょうだいの人数において「3人」の比率が19.8%と、杵築市大田地区に次いで高い。⑨近隣関係において「困った時に助け合う（介護以外）」の比率が17.3%と高い。⑩集団参加において「スポーツサークルや団体」の比率が15.2%と最も高い。⑪家族介護で困った時の相談相手において「家族や親族」の比率が37.1%と大分市中心市街地に次いで高い。

（2）大都市郊外性

宝塚市山手住宅地（大都市郊外住宅地）の特徴としては次の点が指摘される。①年齢「70-74歳」の比率が23.6%と最も高い。②「居住年数30-39年」の比率が40.2%と大分市郊外団地に次いで高く、「居住年数40年以上」の比率が7.5%と大分市郊外団地に次いで低い。③家族構成において「夫婦（共に75歳未満）」の比率が29.3%と大分市郊外団地に次いで高い。④家族構成において「二世世代家族（子と同居）」の比率が25.7%と大分市郊外団地に次いで高い。⑤家族構成において「単身（一人暮らし）」の比率が13.8%と大分市郊外団地に次いで低い。⑥子ども数「2人」の比率が57.2%と最も高い。⑦子どもが片道1時間未満の範囲に居住している比率が杵築市大田地区とともに27.3%と高い。⑧別居している子どもの実家への帰宅頻度において「半年に1回程度」「月に1回程度」の比率が22.8%、19.9%と最も高く、帰宅頻度は低い。⑨きょうだいの人数において「1人」の比率が25.1%と最も高く、「5人以上」の比率が8.9%と最も低くなっている。全体としてきょうだい数が少ない。⑩1時間以内の距離に住んでいるきょうだいが「いない」の比率が53.0%と最も高く、近くにきょうだいが住んでいない人が多い。⑪近隣関係において「玄関で立ち話する」の比率が41.8%と最も高く、「病気になった時に介護」の比率が4.3%と宝塚市K団地に次いで低くなっており、近隣関係は地方の地域に比べて弱い。⑫集団参加において「自治会」が49.2%と宝塚市K団地に次いで高く、「文化サークルや団体」の比率が13.5%と杵築市中心市街地に次いで高い。⑬家族介護で困った時の相談相手において「友人・知人」の比率が11.3%と最も高く、「市役所の窓口」が11.4%と宝塚市K団地に次いで高い。

宝塚市K団地（大都市郊外公団地）の特徴としては次の点が指摘される。①年齢「80歳以上」の比率が22.2%と杵築市大田地区に次いで高い。②「単身（一人暮らし）」の比率が41.7%と特に高い。③子どもが「いない」比率が35.2%と特に高い。④きょうだいの人数において「2人」の比率が25.0%と最も高い。⑤1時間以内の距離に住んでいるきょうだいが「いない」の比率が50.9%と宝塚市山手住宅地に次いで高く、近くにきょうだいがいない人が多い。⑥近隣関係において「挨拶する程度」の比率が35.2%と最も高く、「病気になった時に介護」の比率が3.7%と最も低くなっており、近隣関係は最も弱い。⑦集団参加において「自治会」が50.8%と最も高い。⑧家族介護で困った時の相談相手において「市役所の窓口」が13.7%と最も高い。

（３）高齢化性

高齢化率が高く、80歳以上の回答者の多い杵築市大田地区、宝塚市K団地においては以下のような共通性を見出すことができる。①単身（一人ぐらし）の比率が高い（宝塚市K団地41.7%、杵築市大田地区27.1%）。②同居している子どもの比率が低い（宝塚市K団地12.0%、杵築市大田地区24.3%）。③最も近くに住む子どもの居住地が「1時間以上・3時間未満のところ」の比率が高い（杵築市大田地区16.1%、宝塚市K団地15.7%）。

（４）共通性

- ・ 6地域に共通した特徴：①子ども数「2人」の比率が最も高い。②近隣関係において「病気になる時に介護」の比率が低い。③家族の介護で困ったときの相談相手として「家族や親族」の比率が圧倒的に多い。
- ・ 大分市郊外団地と宝塚市山手住宅地に共通した特徴：①「居住年数30-39年」の比率が高い。②「夫婦2人（共に75歳未満）」の比率が高い。③「子ども2人」の比率が特に高い。④最も近くにいる子どもの居住地で「片道1時間未満」の比率が高い。⑤きょうだいの人数において「1人」の比率が高い。
- ・ その他地方の地域と大都市郊外の地域との共通性：杵築市大田地区と宝塚市山手住宅地においては子どもが「片道1時間未満」の距離に住んでいる比率が高い。

以上のごとくインフォーマルサポートネットワークの分析から見出された地方性、大都市郊外性、高齢化性、共通性は認知症ケアの地域的環境を示すものである。こうした地域的環境が認知症のサポートとどう結びついているか、といった問題が重要である。これらの地域と認知症サポートネットワークとの関連分析は本調査研究の中核を形成するものであるが、紙幅の関係もあり別の機会に譲ることとしたい。

参考文献

- 日本認知症ケア学会編『改訂・認知症ケアの実際Ⅰ：総論』株式会社ワールドプランニング
2009年1月
- 日本認知症ケア学会編『改訂・認知症ケアにおける社会資源』株式会社ワールドプランニング
2009年1月
- 日本認知症ケア学会編『改訂・認知症ケアの基礎』株式会社ワールドプランニング 2009年1月
- 大道安次郎・奥田憲昭著『変貌する周辺都市 宝塚市のケース・スタディ』恒星社厚生閣
1984年
- 中野秀一郎『社会学の発想』有斐閣 2006年
- 金光 淳『社会ネットワーク分析の基礎』2003年
- 山手 茂『福祉社会形成とネットワーク』社会学・社会福祉学論集 亜紀書房 1996年
- 石黒 暢「高齢者と家族」善積京子『スウェーデンの家族とパートナー関係』青木書店 2004年
- 直井道子『高齢者と家族：新しいつながりを求めて』サイエンス社1993年